

評価のポイント

CL-IV. 看護実践能力：意思決定を支える力

[27-4] 小児の電話相談 応用編：事例紹介

事例を読んで、下記の 3 つの視点で相談者への対応（声掛け・向き合い方など）を考えてみましょう。

- ①相談者の背景や真の理由を理解する
- ②必要に応じて緊急性の判断をすみやかに行う
- ③保護者が判断や行動ができるように対応する

【電話の第一声】

金曜日から 38 度の発熱があったので受診して、もらった解熱剤を使用しましたが熱が下がりません。

食事や水分はいつもより少なめで寝ていることが多いです。

今、熱が 39 度を超えて震えています。どうしたらよいでしょうか？

【相談背景】

日曜日の 19 時 父親からの相談

1 歳 10 か月 男の子（第 2 子）

母親は美容師（今日は遅番と聞いている）、父親は会社員、3 歳の姉の 4 人家族

金曜日から発熱して、近医を受診。上気道炎といわれ 5 日分の抗生剤と解熱剤を処方された。熱が続くようなら月曜日に再受診と言われている。金曜日は抗生剤を飲んで、解熱剤を使用して入眠できた。土曜日は 37 度代になり元気もあったので保育園に行かせた。保育園から帰宅後に夕食を食べて遊んでいたが、19 時頃からまた熱があがりはじめたが、薬を飲まずに寝てしまった。相談当日の朝に、薬をかりうじて飲んだが、母親が仕事に行ってしまったからあまり水分もとれず、昼食も夕食も食べてくれない。相談時、体温は 39.5 度で、震えている。座薬は 18 時に使用した。でも、熱が下がる様子はなく、なんとなくいつもと様子が違う気がする。口唇は乾燥しており、ぐったりしている。母親は今日は遅番で 20 時過ぎにしか帰宅しない。いつもと様子が違うことに不安になって、この相談先を教えてもらっていたので電話した。このまま母親が帰宅するまで、様子を見てよいのか、何をしてよいのかアドバイスが欲しい。

正解・不正解はありません。想定事例であるため、各個人がさらに膨らませた患者の背景や地域・所属施設によって、対応方法には違いがあると思います。それを踏まえて、①～③のポイントがそれぞれ含まれ、相談者の気持ちに寄り添おうという姿勢や声掛け方法が検討できればよいと思います。ただし、この事例では、こどもの状態があまりよくありませんので、こどもの状態をいかに速やかに父親から情報収集し受診判断できるかも重要です。震えがけいれんではないのかどうか、脱水の重症度は、救急車使用すべきかどうか、なども考えましょう。